



# 学校だより

No.2 5月号  
令和5年4月28日  
横浜市立洋光台第四小学校

～ 手をとるあい ぐんぐんのびる しんめの子 ～  
ホームページもご覧ください。www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

## あいさつは「魔法の言葉」

校長 山口 高弘

学校が始まり、1ヶ月が経ちました。校内の木々の緑も少しずつ色が濃くなってきました。また、今年も職員玄関前にツバメが巣を作り始め、春の後ろ姿を感じる時期となりました。子どもたちも学校に慣れ、友達や先生との関わりもできてきて、どのクラスも活気が溢れてきています。

登校時に正門の前で、子どもたちとあいさつをしています。元気にあいさつをする子や恥ずかしそうにうつむきながらあいさつする子、友達との会話に夢中であいさつを忘れてしまう子など様々です。

あいさつには「朝のあいさつ」の他に、いろいろなあいさつがあります。例えば・・・、

- 朝、起きた時や会った時、「おはようございます。」  
(相手の名前も一緒に言えると、更に素敵ですね。)
- 食事の時に、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」
- 家を出る時、帰った時に、「行ってきます。」「ただいま。」
- 寝る時、「お休みなさい。」
- 感謝する時やお礼を言う時、「ありがとう (ございます。)」
- 謝る時、「ごめんなさい。」



「あいさつ (挨拶)」の「挨」には「人と人が出会う」、「拶」には「出会った人が心を開いて近づいていく」という意味があるそうです。また、「あいさつは魔法の言葉」とも言われます。友達と喧嘩をしても、あいさつをすることで仲直りのきっかけになったり、あいさつを交わすうちに、よりよい人間関係が築けたりします。まさにあいさつは、人と人の心を繋いだり、人の心を温かくしたりしてくれる言葉です。また困っていたり、心が弱っている人を元気づけたり励ましたりする魔法の言葉です。

人間は、成長と共にその場にあった礼儀作法を身に付け、あいさつが上手になっていきます。つまり、あいさつは「成長のバロメーター」の一つであるとも言えるかもしれません。小さい時のあいさつは、保護者から促される受動的なあいさつが多いのではないのでしょうか。しかし、成長するにつれて、人から言われなくても自分で判断し、あいさつを交わすことができるようになります。これは、自分だけではなく相手の存在を認識し、受け入れることができる証拠だと思います。また、相手を気遣ったり思いやったりする心の成長でもあります。子どもたちにあいさつを習慣づけていくことは、このような心の育成を図ることや心の成長を促すことに繋がります。

そのためにも、まずは私たち大人が、子どもの良いお手本となることが大切ではないでしょうか。そして、学校はもちろんですが、家庭や地域においても子どもたちの良いあいさつに対して「気持ちの良いあいさつだね。」や「立派なあいさつができるね。」など子どもたちの成長を受け止め、しっかりと褒めていくことが大切であり、大人の役割であると考えます。

より一層、学校や家庭、洋光台地区でのあいさつの輪が広がることを願っています。